



福島県

山田 秀和さん(川添)

取材者：認定特定非営利活動法人市民公益活動パートナーズ 古山・松田
取材日：6月4日

農業はおもしろい。 生きがいと働きがいを感じています



郡山市の中心市街地から国道49号をいわき方面に向かうと、程なくして同市田村町に。その国道から少し入ると、山田さんの自宅と、イチゴを育てるビニールハウス6棟があります。

出荷の最盛期は過ぎていましたが、山田さんが自身で育てた、真っ赤に熟れたイチゴを味見させてもらいました。甘くみずみずしいその味は、果物というより、まるでお菓子のようでした。

◆避難中も家族と一緒に暮らせたことは本当にありがたいですね
震災が起きた当時、私はホームセンターのマイプラザに勤めていて、買物客を誘導し店を閉めた後、消防団の活動に参加していました。
郡山市田村町のこの自宅から程近くにある守山小学校のそばに姉が住んでいて、3月14日から、家族や親せき、合わせて10人で避難しました。その後、多いときには30人近くまで増えましたが、私たちは1か月後に姉の家の近くに空き家を借りることができました。5人の子供たちは当時、生後6か月から10歳まででしたが、幼い子供たちは、そのまま地元守山小学校に入学しました。
その後、近所の方々の勧めや母と妻の後押しもあり、今の自宅の敷地の近くに畑を借りてイチゴを作りはじめ、現在まで

続けています。ですが、いつも支えてもらっている守山地区の方々には本当に感謝しています。

◆スイーツにしてもよし、イチゴ狩りというアクティビティもできる：イチゴにはパワーを感じます
母は、こちらに住むようになって、今まで育ててきた果樹などの世話ができなくなりかかりしていました。浪江に住んでいた頃から、畑仕事や土いじりが大好きで、イチゴを育てたことがあったことを思い出して、自宅でもできる仕事として農業に取り組みことにしたんです。私も土作りを始めてみると気持ちよく、畑仕事が好きなんだなと思いました。
原発事故で汚された土の汚染は目に見えないし、誰も放射線物質を拾ってくれない。この土のために何が有効かを一生懸命調べ、畑を借りた年の翌年3月頃から「天地返し」という技術に注目し、試し始めました。また一方で、西白河郡矢吹町にある農業短期大学の新規就農コースに半年間通い、土作りをはじめ、有機肥料や野菜の作り方などを学びました。
イチゴ栽培を始めた頃は販売場所を探していろいろ試してみましたが、今ではクリスマス過ぎから5月頃まで自宅前や電話予約による直接販売を中心に、近所の「JA福島さくら」の店舗や郡山市内の「愛情館」などにも置いてあります。直接販売のいいところは、お客さんと

会話できることです。また、6次産業化に挑戦するため、自宅脇に作業所も作り、完熟したイチゴでジャム作りをしています。人を雇って大きくすることは考えず、夫婦二人、マイペースにイチゴを作りながら、子育てを楽しみたいと願っています。
◆郷土史から見つける守山地区と浪江や相馬との不思議な縁には驚かされます
守山地区には「守山文芸愛好会」という地域活動団体があり、なかでも郷土史家の先生からは様々なことを学んでいます。郷土史を深く知ると、面白いことが分かってきます。例えば、守山地区はかつて守山藩といひ、江戸幕府の御三家の一つ、水戸藩の御連枝で、水戸光圀公の弟である頼元が藩主をしていました。その頼元の娘の多称姫が、相馬藩21代当主である相馬昌胤公のもとに嫁ぎ、浪江で生活し、大堀相馬焼を奨励していたとのこと。また、畑を「天地返し」で浄化を行った際、畑から大堀相馬焼らしい破片が見つかりました。焼き物の保護・育成を図っていた相馬藩との交流を物語るものではないかと思っっているんです。そのようなことから、ここ守山地区と浪江町や、私たちの祖先とのつながりに驚きつつ、郷土史がますます面白く感じています。

浪江の ころ通信

・第98号・



平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、町内全域に出されていた避難指示は、平成29年3月31日に「帰還困難区域」を除き解除されましたが、多くの浪江町民は福島県内外に分散して避難生活を続けています。町を取り巻く状況が徐々に変化の中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

“浪江のころプロジェクト”は、町民の皆さんの声を「浪江のころ通信(※1)」を通してお届けし、皆さんの思いや暮らしぶりを発信・共有しようとするものです。

一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム(※2)が中心となり、全国各地のNPO、大学などの皆さんが取材を進め、浪江町と連携し「浪江のころ通信」を編集・発行しています。

- ※1 浪江のころ通信は、町民の皆さんがお話した「ころ」を伝えることを大切にするため、取材者が聞き取ってまとめた原稿をほぼ原文のまま掲載しています。
- ※2 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、大学、NPO、企業、経済団体、行政などが連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のころ通信／第98号」への感想をお寄せください。
【連絡先】〒979-1592
双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7番地2
「浪江のころ通信」宛て
FAX.0240(34)4593



料金受取人私郵便
原町局
承認
1756

郵便はがき
9791590

差出有効期限
令和2年
3月31日まで
有効

双葉郡浪江町大字幾世橋
字六反田7番地2

浪江町役場 企画財政課
「広報なみえ」担当 行

